

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 55 今日はひかりを	讚美歌 344 とらえたまえ、わが身を
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 詩編 139:11~12	黙 禱
テサロニケの信徒への手紙一 5:10	主の祈り 564
讚美歌 390 やさしく友をむかえよ	讚 詠 546 聖なるかな、せいなるかな
説 教 『光の中でも、闇の中でも』	祝 禱 後 奏

「主は、わたしたちのために死なれたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためなのだ(1テロニケ 5:10)」。深くため息をつき、改めてそうなんだなあと思う。「眠っていても」とは、「夜寝ていて気づかぬ間にも」という直截の事もあろう。ただ幾らかの比喩として、「神に向かって生きている時も、神を見失っている時も」といった意味ではないのか。

何らかの契機で「神が共にいて下さる」という予感がして、嬉しくなり、心から祈りを献げることがあるだろう。その一方でまた、世の煩いや自分の混乱で心が占領され、神が脇へ追いやられてしまうような一時期もあろう。自分で神を脇へ追いやっておきながら、そのためにポッカーリ空いた穴を恐れておろおろする。我儘と言うか、自分勝手と言うか、しかしそれでも「主は、わたしたちのために死なれた」のだ。なぜならば、たとえ私たちが我儘で好き勝手に「眠ってしまおうとも」、主は私たちを愛し、愛する者と共に生きようとされたがゆえに。主は、私たちのために十字架にかかった。

同一の群衆ではないにしても、ある時には「ホサナ、主の名によって来られる方に、祝福があるように(マルコ 11:9)」と熱烈歓迎し、その同じ口で「十字架につける(15:13~14)」とおぞましい言葉を吐く。人間とはなんと無責任で残酷な存在か。「目覚めていても眠っていても」という私自身は、そのくらい幅として見立てられるんじゃないか。歴史を見ると、ほとんどの人間にはそれほど段差がある。

「[闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す]。闇もあなたに比べれば闇とは言えない。夜も昼も共に光を放ち、闇も、光も、変わるところがない(詩編 139:11~12)」。主なる神は、光をもって人間の闇や夜を払拭なさらない。なぜなのか。人間は闇や夜によっても輪郭づけられているからだ。主はこんな人間から離れず、私たちの闇に光を放ち、私たちの夜を照らす。「光が世に来たのに、人々は～光よりも闇の方を好んだ(ヨハネ 3:19)」。それでも、光は私たちを見捨てない。

光と闇を同じ文脈で言い換えるなら、「天に登ろうとも、あなたはそこにいまし、陰府に身を横たえようとも、見よ、あなたはそこにいます(詩編 139:8)」。人間には不可避な死が待っている。だがいつか陰府に身を横たえようとも、そこにも主が共におられる。抽象的に聞こえるかもしれないが、詩人は具体的な人間の死を語っている。人間に対して強い拘束力をもつ死に、主は勝利する。人間には抗しがたい死においても、主は共におられる。それを夜と光に置き換えれば、「闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す(139:11)」という表現になる。非現実的な現実の比喩。

詩編をひと巡りして再びテサロニケ書に戻ってくると、それが私たちにとっての現実だと分かる。「主は、わたしたちのために死なれたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためなのだ(1テロニケ 5:10)」。主が日々私たちと共にいようとされ、十字架で「わたしたちのために死なれた」。なぜそこまでして、と思う。もう「愛」としか言いようがない。

熱心な信仰や真摯な祈りに応えて、主は確かに私たちと共にいて下さる。しかし私たちが、主を脇へ追いやり、信仰はうわの空で、主日礼拝の優先順位が後回しになり、眠ってしまっても共にいて下さる。それほど主の愛をこの身に覚えるなら、さあ眠ってはいられない、さあ死んではいけない。

主に背くほどではないにしても その優先順位を後回しにしていることがある 日常の中において夜が深まれば自ずと寝てしまう 起きて祈っている時も 握力で主をつかまえているわけではない

本日礼拝直後に吉村トク姉の納骨式、役員会もあります。7/14は分区聖日で、日下部教会の李震一(イ・ジンイル)牧師をお迎えします。山本牧師は日下部教会へ。7/13(土)1:30~3:00 聖研・祈禱会。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。